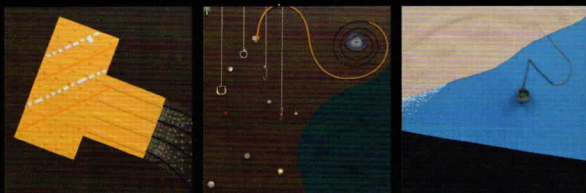


触れる美術展 2018 手から始めよう



(上段)西村陽平《沈黙の土》2003年(撮影:加藤成文)(中段左から)光島貴之《不安な気分》2012年、光島貴之《今にも飛上がりそうなきうききした気分》2012年、光島貴之《重い空気、あるいは違和感》2012年(下段左から)西村陽平《土に閉じ込められた陶片》2000年、光島貴之《ふきだまり》(部分)2018年

長野県信濃美術館では、より多くの方々に美術作品を鑑賞していただく事業として「触れる彫刻(美術)展」を、2015年度から毎年度開催してきました。今年度は、視覚以外の感覚を使って楽しむ美術に積極的に関わってきた、西村陽平と光島貴之を迎えて「触れる美術展」を開催します。

触れないで鑑賞するのがあたり前と思われてきた美術鑑賞ですが、触れることでどのような世界が広がるでしょう。時には素早く、時にはゆっくりと、触れ方でも感じ方は変わります。温度や触感、質感から生まれる感覚の豊かさをお楽しみください。

出品作家プロフィール

西村陽平

1947年京都生まれ。東京教育大学教育学部芸術学科彫塑専攻(現・筑波大学)卒業。造形作家として制作を続けながら、74年から98年まで23年間、千葉県立千葉盲学校にて美術教諭を務める。77年、第4回日本陶芸展で外務大臣賞受賞。書籍に土を塗り高温で焼成させる作品シリーズにより高い評価を受ける。視覚、聴覚、触覚などの感覚に働きかける作品を制作する他、国内外で触覚をテーマにしたワークショップを多数開催。

光島貴之

1954年京都生まれ。10歳頃失明。大谷大学文学部哲学科を卒業後に鍼灸院開業。鍼灸師として勤めながら92年より粘土造形を、95年より製図用ラインテープとカットシートを用いた「触る絵画」の制作を始める。98年、「'98アートパラリンピック長野」大賞・銀賞を受賞。他作家とコラボレーションした「触覚連画」の制作や、近年では「触覚コラージュ」といった新たな表現手法を探索している。また、触覚に着目したワークショップにも精力的に取り組んでいる。

関連イベント

作家と一緒に手や耳で楽しむおしゃべり鑑賞会

2018年12月 8日(土)

講師:西村陽平氏 ①10:30~12:00 ②13:30~15:00(②のみ手話付き)

2018年12月15日(土)

講師:光島貴之氏 14:00~16:00

【参加費】無料【申込】要申込 各回10名【集合場所】展示会場にお集まりください。

【定員】10名(先着順・要申込)【お申込み方法】下記の事項を、イベントの1週間前までに長野県信濃美術館にお申し込みください。

- 1)参加希望イベント
- 2)お名前
- 3)連絡先携帯電話番号
- 4)メールアドレス
- 5)障害の有無
- 6)同伴者の有無と人数

鑑賞補助ボランティア募集

会期中「触れる美術」鑑賞補助をしていただくボランティアを募集します。

詳細は、美術館(TEL026-232-0052)にお問合せください。

主催/長野県、長野県信濃美術館

お問合せ・申込 長野県信濃美術館

電話 026-232-0052 URL <http://www.npsam.com>



ギャラリープラザ長野

長野市新田町 1513-2 (82 プラザ長野内)

アクセス方法

- ・長野駅「善光寺口」より中央通りを善光寺方面へ、徒歩15分です。
- ・中央通りと昭和通りが交差する「新田町」交差点の北西側にあります。
- ・駐車場は、82プラザ長野ビル西側にあります。